

祭典ニュース No.5 2020年3月30日

～ひかりにむかって～

3月20日地元広島第7回運営委員会を経て

～コロナにひるまず、祭典準備を進めましょう～

祭典運営委員長寺本美和子

新型コロナウイルスの感染拡大によるイベントの自粛要請を受けて、文化運動も大きな打撃を受けています。広島でも、あちこちのサークルで活動を休止したり延期したりしているのはご存じの通りです。中には、会場の使用許可が取り消されて止む無くレッスンを休止した団体もあります。

広島合唱団は、今のところ会場は使えるので、手洗いや換気、椅子の間隔を離す、時間短縮という対策をとってレッスンを続けています。しかし、3月28日に予定していた「ほのぼのうたう会」は、延期せざるを得ませんでした。うたごえを知らない方々にも広く声を掛け、祭典への支援も訴えようと計画していたのですが、今、不特定多数が集まるイベントを組むことへの理解が得られそうにないからです。

それに追い打ちをかけるように、ニューヨークで初めて開かれることになっていた原水禁世界大会も中止となってしまいました。被爆者の方々の落胆はいかばかりでしょうか。私達も、NY行動を盛り上げ、祭典につなごうと思っていただけに、残念で仕方ありません。祭典の企画の見直しもしなければなりません。これから先、いつ合唱の練習が始められるのか、会場は？…等、先行きが見えません。祭典に向けてのムードも停滞しそう…。

でも、しょげてはいられません。核兵器廃絶の運動まで停滞させるわけにはいきません。こんな時だからこそ、学習して力に変えたいものです。3月14日、文団連の「ヒロシマ学習」、朝日新聞広島総局記者宮崎園子さんの「ヒロシマを記録し、伝える」の講演は、こんな私達の思いにぴったり応えてくれるものでした。「ヒロシマを語り継ぐために、今問われているのは、『ヒロシマの発信力』である。国の姿勢がどうであれ、ヒロシマとして訴えるべきことがある。」等と。新聞記者として取材しつつ、「被爆者のひ孫」をもつ母として学びながら仕事をされている宮崎さんと、うたごえ運動をしている私達の思いは重なるところが多いと感じました。私達が祭典を準備し、ヒロシマを歌い継ごうとしていることへのエールを送られた気がして、元気が出てきました。

また、3月20日の第7回運営委員会では、各委員会が話し合いや準備を着々と進めており、県内の賛同募金が目標に向かって着実に前進しているという嬉しい報告もありました。同日、祭典のホームページも公開されました。分かりやすく工夫された素敵なものです。皆さんの頑張りがひしひしと伝わってきます。今こそ、うたごえ運動の本領を発揮する時です。コロナをめぐる状況を注視しつつ、ひるまず、運動を前に進めていきましょう。

**事業活動も本格化**

祭典事務局実行委員委員会の事業部では、みんなで知恵を出し合って事業活動に奮闘中です。現在、検討又は進めている物販物として、Tシャツ、トートバック、クリアファイルがあります。また、2月に開催された日うた総会でも(広島)先行販売した、コーヒーは好評を得ています。これからも続々と新しい事業物の提案が出されます。是非、広島祭典にお越しの楽しみにお出てください！

## コロナに負けずに準備を進めます

全国各地でコロナ対策で公演やレッスンの自粛があります。広島では20年間続いてきた市民や弁護士を中心とした実行委員会が主催する憲法ミュージカル(毎年5月3日開催)も中止となりました。現地事務局も、県立体育館などが休館のため予定していた現地実行委員会が延期する状況もあります。ですが、可能な限りのコロナ対策と祭典に参加いただく皆さんの受け入れ態勢に向けた会議など進めているところです。皆さん、健康には注意され、被爆75年の広島へ思いを込めてのご参加をお待ちします。